

根上中だより

E-mail neagari-jhs@school.city.nomi.ishikawa.jp

HP <https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/neagari/>

NO. 21

発行者 根上中学校校長 木下 浩明

〒929-0124 石川県能美市浜町ワ60

TEL 0761-55-0160

FAX 0761-55-0456

■2学期を振り返って「いいねえー根上中 そして がんばろう根上中」

8月24日にスタートした長い2学期が、今日で終わります。コロナ禍ではありましたが、この2学期には、創意工夫して、運動会の代替え「NEAGRI2020」、文化祭の代替え「文化祭ウィーク」、3年修学旅行の代替え「3年バス遠足」、1・2年生の遠足代替え「能美ふる校外学習」を計画し、成功させることができました。例年とは違う形の行事に取り組み、目標やテーマを達成できたことを皆さんとともに喜びたいと思います。いいねえー根上中！です。どの行事にも皆さんのあふれる笑顔があり、頼もしさ、たくましさを感じ、あらためて体験や経験は人を成長させることを実感できました。

また、9月に無観客で開催された能美新人大会では、1・2年生が3年生の先輩のビデオによる応援メッセージを受けて、どの会場においても、相手チームや自己の記録に挑戦し、最後まで粘り強く戦ってくれたことが、次の加賀地区新人大会や県選抜大会につながりました。この経験で得た新たな課題に、この冬地道に、まじめに、一生懸命取り組むことで、きっと来年の春にさらに強く上手になっていると思います。がんばろう根上中！です。3年生の後輩へのビデオメッセージには、7月の能美部活動交換大会の時の1・2年生からの北校舎窓からの激励メッセージのお返しでした。この先輩が後輩を思いやり、後輩が先輩のために応援するこの気持ちが素敵だなあーと思いました。いいねえー根上中！です。

そして、短いしかも酷暑の夏休み期間を使って、高速道路の壁画を完成させた美術部、活動が制限された中、ぴゅあコンサートを成功させた吹奏楽部、そのほかの文化部も例年と違う環境の中でもきちんと真面目に活動してくれたことはすごいことだと思います。

2学期本当に充実した根上中学校であったことを、皆さんとともに確認したいと思います。

さて、2学期のテーマは伸びる子でした。①素直な心②あいさつ③そうじでした。どうでしたか？意識して実践できましたか？結果は、成績や部活動の結果、他の人（先生・友達・親・地域の人など）からの評価でわかると思います。ぜひ、振り返ってほしいと思います。できたなと感じている人は、続けましょう。継続は力なりです。まだまだだと思える人は、粘り強く取り組みましょう。必ず伸びる人になれますから。

最後に、今日の午後からスタートする冬休み、この冬休みにはクリスマスとお正月がありますが、生活のリズムをくずすことなく、計画的に過ごしてほしいと思います。冬休みから3月までのテーマ”伸びる子”をベースに”勉強の冬”です。部活動で体と心を鍛えますが、学習は頭を鍛えることになります。がんばろう根上中！です。

※今年の「文芸能美」に掲載された作品です。自分が体験したことから感じたこと考えたことを、これからの自分の生き方につなげています。とても素敵なことだと思い、皆さんと共有しようと思います。ぜひ読んで共感できたらいいなあ～。

「一つの行動が世界に広がる」

3年 大田美里

誰もが過ごしやすい町を作るために、私に何ができるのだろう。そう思い始めたのはある日の帰り道でのことだった。

そこには、困った様子の女性がいて、その女性の視線の先には道をうろうろする外国人女性の姿があった。気になった私はその外国人女性に声をかけてみた。すると、片言ではあるものの、一生懸命に日本語を使って駅への行き方がわからないことを伝えてくれた。駅を案内し家に帰ろうとしたところ、その女性が言った。

「ありがとう。」

その言葉は日常的に使われ、あたりまえに存在する言葉のはずなのに、なぜかその時は特別に思えた。それは、私がチャレンジしたことによって味わうことができた喜びがあるからなのではないかと考える。勇気を出して挑戦して、誰かから感謝の言葉をもらおうと、自分の行動に意味があったのだと思えた。

また、外国人女性を気にしていた女性はというと、言葉が通じないと思い声をかけたくてもかけられなかったようだ。なぜなら、私が外国人女性と話していると、その女性も私のところへかけよって助けてくれたからだ。

このとき、私の住む町は相手を思いやる気持ちであるれていると感じた。荷物をかわりにもってあげる人や、「大丈夫ですか。」と声をかける人。周りをよく見れば、今まで気づいていなかったこの町のよさがいくつもあった。

この体験を通して学んだことは他にもある。それは、感謝の言葉の意味である。これまでの私にとって感謝とは、ありがたく思って礼を言うという一方通行のものだった。しかし、私にとって感謝の言葉とは、お礼の気持ちを表し、人と人をつなぐものへと変わった。「ありがとう。」そう言えば、互いに温かく、優しい気持ちになれる。そんな心の架け橋となる感謝の言葉はまるで魔法のようだ。

私は現在、インターネットを通して外国人と交流している。言葉が伝わりづらいからこそ、伝わったときは心が弾んだ気持ちになる。私が外国人と積極的にコミュニケーションをとろうと思った理由は、あの時、外国人女性と、国は違っても互いに明るい時間を共有できたからだ。そして、外国の人に話しかけた勇気は、私と彼女をつなぎ、私を世界という新しい道へ導いてくれたのだった。

誰もが過ごしやすい町を作るためには、一人一人を大切にしなければならない。人と人が助け合い、励ましあえる町をつくるべきだ。そのために私は常に感謝を忘れずに日々の生活を過ごしてゆきたい。そして、共に暮らす外国の人に、もっと日本人の温かさや地域の魅力を発信できる人になりたい。私が行動することで、地域から世界へ、人助けや思いやりの輪を広げたい。